

女夫石遺跡発掘調査速報

No48

今回は12月16日・17日に開催された武田氏の集大成の城「新府城」の見学会の報告です。16日は暖かかったですが、17日は少し冷え込みが厳しかったです。それでも2日間で約120名の方が見学されました。東京から電車で駆けつけた方もいらっしゃいました。新たに確認された築城技術を現地でみんなで検討しました。あと、毎年恒例のスライドショーも行ないました。ちょっとだけ新バージョンにしてみました。結構、好評でした(自画自賛・・・)。発掘調査を手伝ってくださっている皆さん、ご協力ありがとうございました！



門と土壘をつなぐのは板塀(いたべい)ではなくて、土塀(どべい)だったことが土の堆積(たいせき)の観察で分かりました。門の復元をするための貴重な新発見です。発掘のデータを一つ一つ積み上げて門を復元します。皆さんお楽しみにね！



新府城の北西の玄関口の調査だよ。次々に新たな発見が発掘されるんだってさ。担当者の説明を聞いて皆さん、戦国時代に思いをめぐらせていたみたいだね。今後の調査も楽しみだね！早く門が復元されるといいね！

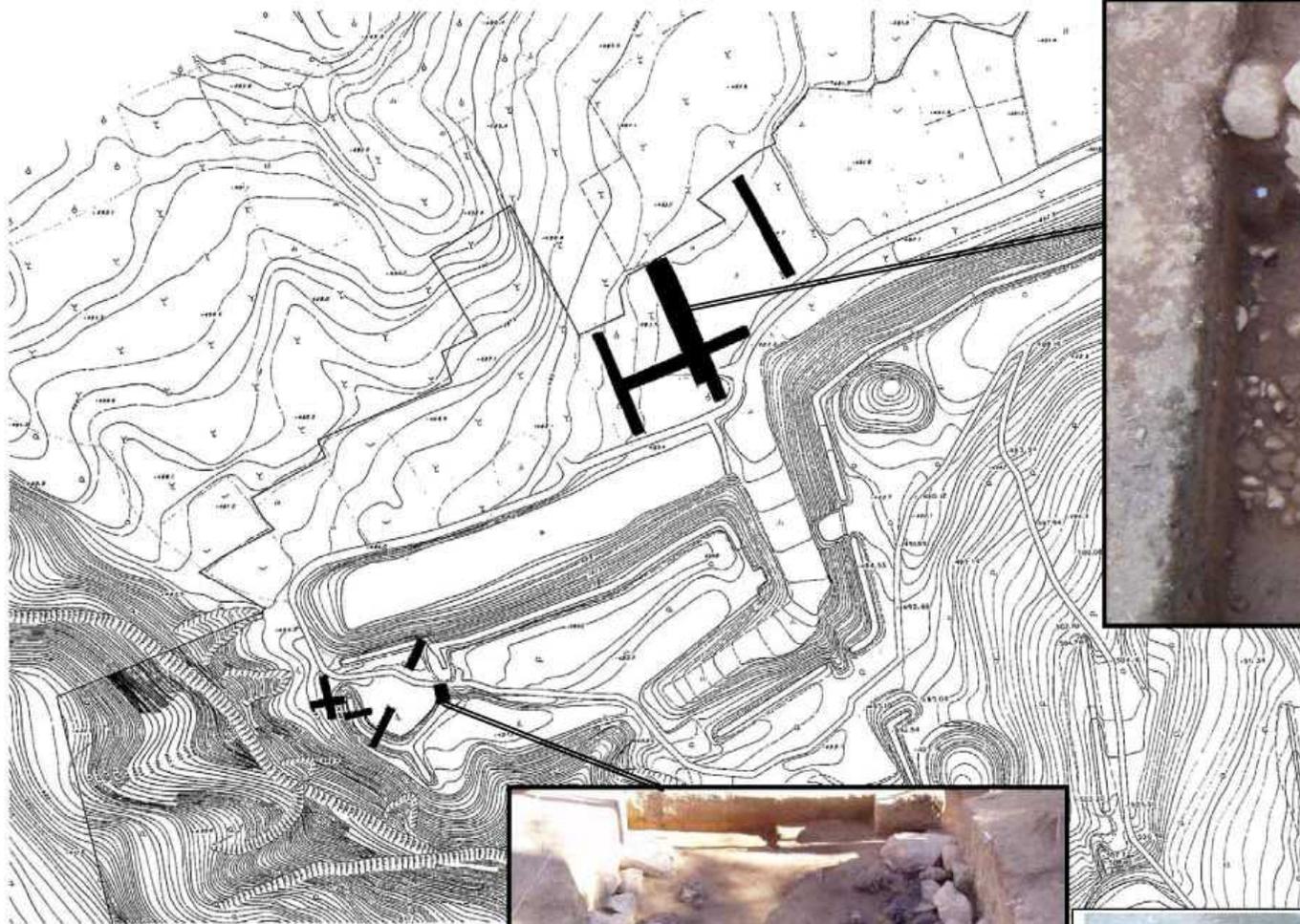


担当者の説明を覗き込んで聞いている皆さんです。土の堆積状況の観察でどんなことが分かるのか？説明を聞いて皆さん納得していたようで

- ｽﾘ: 今日は、前にドングリ拾いをした新府城で見学会があるんだってさ！新聞によると何か新しい発見があったらしいよ。
- ﾏｷ: 去年に引き続き、門の調査をしているんだってさ。復元するためにどんな門が立っていて、土壘の上はどんな風になっていたのかを発掘調査で調べているらしいよ。
- ｽﾘ: 復元するからには、根拠のないものなんか作れないもんね。一体今年は何んな発見があったのかな？
- ﾏｷ: 土壘の上を丹念に調査しても穴がなくて、どんな塀があったのか全く分からなくて、何となく板塀(いたべい)と想定されていたのだけど、土塀(どべい)の痕跡が確認されたんだってさ！
- ｽﾘ: 発掘調査を丁寧に進めていくと、色々なことが解決されていくんだね。
- ﾏｷ: 色々な成果に基づいて復元していけば、武田勝頼さんの想いの詰まった当時の新府城がよみがえってくるね。楽しみだね！(つづ)

風林火山の世界
新府城と武田の里
 1月28日(日)シンポジウム開催！
 東京エレクトロン荻崎文化ホール

新府城跡現場見学会資料



堀北側で発見された石積みと暗渠

今回の調査では南北方向に並ぶ石積みと暗渠排水路が確認されました。時期的には戦国時代までさかのぼるかどうかわかりませんが、堀の北側がどのような場であったの考えさせられます。

石積みと暗渠では、暗渠のほうが時間的には古いので、堀とのかかわりが注目されます。

搦手樹形で発見された門跡の礎石と炭化材

昨年の調査で門跡の遺構が確認されました。天正10年(1582)3月3日に自焼落城した歴史を物語る貴重な発見です。

今回の調査では門に取り付く土塁の版築状の構造が判明しました。武田氏の築城技術を示すものと考えられます。



土塁の版築状の断面土層

2006年12月16日・17日
韮崎市教育委員会